

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【公表番号】特表2002-500222(P2002-500222A)

【公表日】平成14年1月8日(2002.1.8)

【出願番号】特願2000-527541(P2000-527541)

【國際特許分類】

C 0 7 D 401/06 (2006.01)

A 0 1 N 43/50 (2006.01)

A O 1 N 43/78 (2006.01)

C 0 7 D 417/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D 401/06

A 0 1 N 43/50 O

A 0 1 N 43/50 J

A 0 1 N 43/78 B

C 0 7 D 417/06

【手續補正書】

【提出日】平成17年12月21日(2005.12.21)

【手續補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

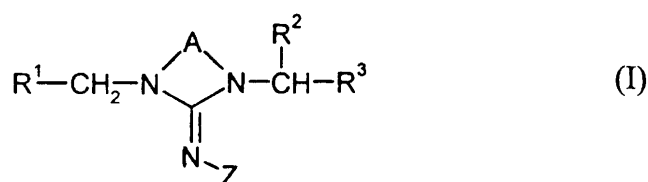
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 式 (I)

【化 1】



[式中、R¹は、ヘテロ原子環構成要素として1個、2個、3個又は4個の窒素原子及び/又は1個もしくは2個の酸素又は硫黄原子を含み(その場合ヘテロ原子数は1個、2個、3個又は4個である。)、且つ、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アルキル、ハロゲンアルキル、アルケニル、ハロゲンアルケニル、アルキニル、アルコキシ、ハロゲンアルコキシ、アルケニルオキシ、ハロゲンアルケニルオキシ、アルキニルオキシ、アルキルチオ、ハロゲンアルキルチオ、アルケニルチオ、ハロゲンアルケニルチオ、アルキニルチオ、アルキルスルフィニル、ハロゲンアルキルスルフィニル、アルキルスルホニル、ハロゲンアルキルスルホニル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アリールチオ、アリールアミノ、アラールキル、ホルミルアミノ、アルキルカルボニルアミノ、ホルミル、カルバモイル、アルキルカルボニル及び/又はアルコキシカルボニルで場合により置換された5員又は6員の複素環式原子団を表し；

R^2 は水素又はアルキルを表し、

R³ は、原子団 - OR⁴、- OCOR⁵、- OCOOR⁶、- OCONR⁷R⁸ 及び - OSO₂R⁹

(これらの原子団中、 R^4 、 R^5 及び R^6 は、相互に独立してアルキル、アルコキシアルキル、ハロゲノアルキル、アルケニル、アルキニル、アルキルアミノアルキル、ジアルキルアミノアルキル、場合により置換されたシクロアルキル、及びそれぞれの場合に場合により置換されたフェニル又はベンジルを表し、

R^7 及び R^8 は、相互に独立して水素、アルキル、アルケニル、及びそれぞれの場合に場合により置換されたフェニル又はベンジルを表し、並びに

R^9 は、アルキル又は場合により置換されたフェニルを表す。)

を表し、

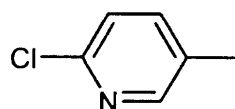
A は、原子団 $-CH_2CH_2-$ 、 $(CH_2)_3$ 及び $-CH=CH-$ を表し、並びに

Z はシアノ又はニトロを表す、

但し、Z が NO_2 を表し、且つ、A が $-CH_2CH_2-$ を表す場合には、基 R^2 は水素を表し；そして

R^1 が

【化 2】



であり、

R^2 が H であり、

R^3 が CH_3 であり、

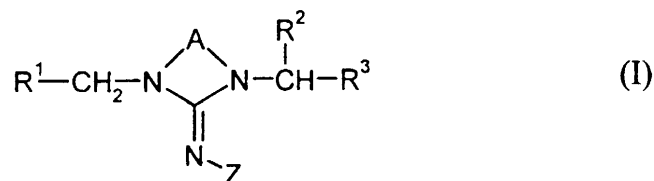
A が $-CH_2CH_2-$ であり、並びに

Z が NO_2 である式 (I) の化合物を除外する。]

の化合物。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の式 (I)

【化 3】



[式中、 R^1 は、ヘテロ原子環構成要素として 1 個、2 個、3 個又は 4 個の窒素原子及び / 又は 1 個もしくは 2 個の酸素又は硫黄原子を含み (その場合、ヘテロ原子数は 1 個、2 個、3 個又は 4 個である。)、且つ、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アルキル、ハロゲノアルキル、アルケニル、ハロゲノアルケニル、アルキニル、アルコキシ、ハロゲノアルコキシ、アルケニルオキシ、ハロゲノアルケニルオキシ、アルキニルオキシ、アルキルチオ、ハロゲノアルキルチオ、アルケニルチオ、ハロゲノアルケニルチオ、アルキニルチオ、アルキルスルフィニル、ハロゲノアルキルスルフィニル、アルキルスルホニル、ハロゲノアルキルスルホニル、アミノ、アルキルアミノ、ジアルキルアミノ、アリール、アリールチオ、アリールアミノ、アラールキル、ホルミルアミノ、アルキルカルボニルアミノ、ホルミル、カルバモイル、アルキルカルボニル及び / 又はアルコキシカルボニルで場合により置換された 5 員又は 6 員の複素環式原子団を表し、

R^2 は水素又はアルキルを表し、

R^3 は、原子団 $-OR^4$ 、 $-OCOR^5$ 、 $-OCOOR^6$ 、 $-OCONR^7R^8$ 及び $-OSO_2R^9$

(これらの原子団中、 R^4 、 R^5 及び R^6 は、相互に独立してアルキル、アルコキシアルキル、ハロゲノアルキル、アルケニル、アルキニル、アルキルアミノア

ルキル、ジアルキルアミノアルキル、場合により置換されたシクロアルキル、及びそれぞれの場合に場合により置換されたフェニル又はベンジルを表し、
 R^7 及び R^8 は、相互に独立して水素、アルキル、アルケニル、及びそれぞれの場合に場合により置換されたフェニル又はベンジルを表し、並びに
 R^9 はアルキル又は場合により置換されたフェニルを表す。)

を表し、

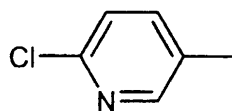
A は、原子団 $-CH_2CH_2-$ 、 $(CH_2)_3$ 及び $-CH=CH-$ を表し、並びに

Z はシアノ又はニトロを表す、

但し、Z が NO_2 を表し、A が $-CH_2CH_2-$ を表す場合には、基 R^2 は水素を表わし；そして

R^1 は

【化 4】



であり、

R^2 は H であり、

R^3 は CH_3 であり、

A は $-CH_2CH_2-$ であり、並びに

Z は NO_2 である式 (I) の化合物を除外する。]

の化合物の製造方法において、

式 (II)

【化 5】



[式中、 R^1 、A 及び Z は上で定義したと同じである。]

の化合物を、塩基の存在下で、また、適切であれば希釈剤の存在下で、式 (II)

【化 6】



[式中、 R^2 及び R^3 は上で定義したと同じであり、並びに

X はハロゲン（特に塩素又は臭素）を表す。]

のハロゲン化合物と反応させることを特徴とする、前記式 (I) の化合物の製造方法。

【請求項 3】 動物に対する有害生物を防除するための組成物であって、請求項 1 に記載の式 (I) の、少なくとも 1 つの化合物を含むことを特徴とする前記組成物。

【請求項 4】 動物に対する有害生物を防除するための、請求項 1 に記載の式 (I) の化合物の使用。